



2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月14日

上場会社名 株式会社ブシロード 上場取引所 東
 コード番号 7803 URL <https://bushiroad.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木谷 高明
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理財務本部長 (氏名) 村岡 敏行 TEL 03 (4500) 4350
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第2四半期の連結業績（2022年7月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	24,090	23.1	1,382	△18.8	1,506	△41.7	829	△54.9
2022年6月期第2四半期	19,574	-	1,703	-	2,581	-	1,837	-

(注) 包括利益 2023年6月期第2四半期 567百万円 (△68.2%) 2022年6月期第2四半期 1,784百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	11.79	11.39
2022年6月期第2四半期	28.85	26.71

(注) 当社は、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を、2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	46,959	20,600	42.4
2022年6月期	43,721	16,192	35.6

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 19,933百万円 2022年6月期 15,580百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	-	0.00	-	9.00	9.00
2023年6月期	-	0.00	-	-	-
2023年6月期（予想）	-	-	-	4.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2022年6月期の配当金は、当該株式分割前の金額であります。これを仮に当該株式分割後に換算しますと、年間配当金は4円50銭になります。

3. 2023年6月期の連結業績予想（2022年7月1日～2023年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,000	19.1	3,500	3.2	3,500	△31.5	2,300	△34.4	32.68

（注） 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当社は、2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年6月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 -社（社名）-、除外 -社（社名）-

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年6月期2Q	71,184,550株	2022年6月期	68,134,780株
② 期末自己株式数	2023年6月期2Q	-株	2022年6月期	3,320,430株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年6月期2Q	70,385,900株	2022年6月期2Q	63,709,143株

（注）当社は、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を、2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算説明内容の入手方法）

2023年2月17日（金）15時30分以降、当社ウェブサイトにて動画配信する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) キャッシュ・フローの状況	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(1株当たり情報)	13
(重要な後発事象)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う行動制限の緩和により、個人消費の持ち直しや経済社会活動が正常化の動きをみせる一方で、ウクライナ情勢の長期化による資源価格や原材料価格の高騰、各国の金融引き締めを背景とした世界経済の景気減速など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループは引き続きTCGユニットが好調で業績を牽引しておりますが、国内・海外とも大型カード商品の少ない四半期であったため、前四半期対比で減収となりました。また、弊社主催の大規模音楽ライブにて観客の声出しを解禁してコロナ禍以前の盛り上がりを取り戻しつつある一方、マスクプレイミュージカルの幼稚園等を中心とした公演中止が続いております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高24,090,600千円（前年同四半期比23.1%増）、営業利益1,382,648千円（前年同四半期比18.8%減）、経常利益1,506,104千円（前年同四半期比41.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益829,808千円（前年同四半期比54.9%減）となりました。

各セグメントの経営成績は次のとおりであります。なお、セグメント売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

なお、第1四半期連結会計期間より、下記の通り報告セグメントを変更しており、前年同期の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

- FY22まで -

デジタルIP事業	
TCG部門 ※BI含む	
ゲーム部門 ※BI含む	
MD部門	
メディア部門	
出版編集	
広告代理店	

ライブIP事業	
音楽部門	
スポーツ部門	

※BI…Bushiroad International Pte.Ltd.

- FY23以降 -

エンターテインメント事業	
TCGユニット	(BIユニット)
デジタルコンテンツユニット	
ライブエンタメユニット	
MDユニット	
MD	
出版編集	
アドユニット	

スポーツ&ヘルスケア事業	
スポーツ&ヘルスケアユニット	

1. エンターテインメント事業

①TCG（トレーディングカードゲーム）ユニット

新規TCG「ヴァイスシュヴァルツブラウ」は2022年11月に初商品となるスタートデッキを8種同時発売、12月には初の大型カード商品であるブースターパックを発売し、好調なスタートを切っております。

「ヴァイスシュヴァルツ」では「PIXAR CHARACTERS」「ソードアート・オンライン」「アズールレーン」など6つ、「Reバース for you」では「リコリス・リコイル」など2つの大型カード商品を発売。「カードファイト!! ヴァンガード」では「モンスターストライク」とのコラボ商品を含む2つ、「Shadowverse EVOLVE（シャドウバース エボリューション）」では1つの大型カード商品を発売いたしました。

TCG市場は引き続き活況であり、当社商品の売れ行きも好調であるため、TCGユニット売上としては前年同期よりも大きく伸ばしておりますが、前期第4四半期や当期第1四半期よりも大型カード商品の発売が少なく、前四半期対比では低い水準での推移となりました。

②デジタルコンテンツユニット

モバイルゲームでは「D4DJ Groovy Mix」がリリース2周年を迎え、新ユニットや新機能の実装を含む多数の施策を実施いたしました。

コンソールゲームでは2022年9月29日に「新テニスの王子様 LET'S GO!! ～Daily Life～ from RisingBeat」を、11月17日に「カードファイト!! ヴァンガード ディアデイズ」を発売いたしました。

モバイルゲームは引き続き厳しい環境が続いておりますが、コンソールゲームは新タイトルが好調な出足を見せしており、非運営型のゲームでありながら各種コンテンツのダウンロード販売が継続していくことが期待されます。

③BI (Bushiroad International) ユニット

BIユニットはTCGユニットとデジタルコンテンツユニットに重複して属しております。

英語版「ヴァイスシュヴァルツ」では、「Miss Kobayashi's Dragon Maid (小林さんちのメイドラゴン)」、英語版限定タイトルとなる「The Seven Deadly Sins: Revival of The Commandments (七つの大罪 戒めの復活)」などの大型カード商品を発売いたしました。英語版「カードファイト!! ヴァンガード」では2つの大型カード商品を発売いたしました。また新たな展開として英語版「Shadowverse EVOLVE (シャドウバース エボルヴ)」のリリース決定を発表いたしました。

デジタルコンテンツにおいては、英語版「ヴァンガード ZERO」がアニメ「カードファイト!! ヴァンガード will+Dress」の英語版の放送やコンソールゲーム「カードファイト!! ヴァンガード ディアデイズ」の発売に支えられ堅調に推移いたしました。英語版「バンドリ! ガールズバンドパーティ!」は累計1,200万DLを突破いたしました。

④ライブエンタメユニット

㈱ブシロードミュージックでは、2年越しの開催となったスペシャルライブ「BanG Dream! Special☆LIVE Girls Band Party! 2020→2022」、ブシロード創業15周年を記念した「ブシロード15周年記念ライブ」をベルーナドームにて開催いたしました。「ブシロード15周年記念ライブ」では、アニメコンテンツにおける大規模ライブとしては初の観客の声出しを解禁、会場内は歓声に包まれました。

㈱劇団飛行船では、開催中止となった公演もあり、当第2四半期においては軟調な結果となりましたが、一昨年取得したイベントホール「飛行船シアター」の利用は徐々に増えております。

⑤MD (マーチャンダイジング) ユニット

「原神」のカプセルトイや「ウマ娘 プリティーダービー」のグッズなど、規模の大きい製品の発売があったものの、第1四半期に続き、海外で製造している製品において輸送費・材料費の高騰が大きく影響しており、利益率の低い製品の販売ペースを落とす対応を行った結果、全体としては売上・利益ともに軟調に推移いたしました。

そのような中、ライブグッズについては、2022年11月に開催した「BanG Dream! Special☆LIVE Girls Band Party! 2020→2022」「ブシロード15周年記念ライブ in ベルーナドーム」関連の売上が好調となり、売上・利益ともに底支えいたしました。

⑥アドユニット

㈱ブシロードムーブでは、第1四半期に引き続き中国クライアント事業が好調となりました。代理店として、企画、イベント制作、運営を担当した「Identity V 第五人格」の「X'mas Fan Meeting クリスマスナイトに鐘が鳴る」や、東京・大阪・名古屋にて企画・設営・運営をワンストップで担当した、TVアニメ「戦姫絶唱シンフォギア」シリーズの10周年記念特別企画展「戦姫絶唱シンフォギア10周年記念展 繋ぐ手と手」など複数のイベントに携わり、四半期として過去最高の売上高を記録いたしました。

これらの結果、エンターテイメント事業は、売上高20,914,448千円（前年同四半期比21.9%増）、セグメント利益1,392,033千円（前年同四半期比25.3%減）となりました。

2. スポーツ&ヘルスケア事業

スポーツ&ヘルスケア本部では、新日本プロレスとスターダムが2022年11月20日、東京・有明アリーナにて「Historic X-over」を開催し、史上初の合同興行として大きな話題を呼びました。また、新日本プロレス・スターダムそれぞれの観客動員数は各イベント会場の制限緩和も手伝い増加傾向にありますが、当第2四半期連結累計期間においては円安の影響や下期に向けた積極的な広告展開の影響で費用が増加しました。

これらの結果、スポーツ&ヘルスケア事業は、売上高3,176,152千円（前年同四半期比31.4%増）、セグメント損失9,384千円（前年同四半期はセグメント損失159,233千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は46,959,467千円となり、前連結会計年度末に比べ3,238,454千円増加致しました。これは主に現金及び預金が1,091,964千円及び投資有価証券が1,829,231千円それぞれ増加したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は26,358,545千円となり、前連結会計年度末に比べ1,169,648千円減少致しました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が486,693千円、1年内償還予定の社債が400,000千円、長期借入金が1,108,239千円、社債が1,600,000千円増加した一方で、転換社債型新株予約権付社債が4,000,000千円、未払法人税等が792,726千円及び買掛金が595,124千円減少したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は20,600,922千円となり、前連結会計年度末に比べ4,408,103千円増加致しました。これは主に配当金の支払いにより利益剰余金が291,664千円減少した一方で、転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の権利行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ2,000,000千円、新株予約権（ストック・オプション）の権利行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ24,150千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が829,808千円増加したことによるものです。

また自己株式の消却により利益剰余金が2,325,717千円減少し、自己株式が2,325,717千円減少（株主資本の増加）しております。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べて1,162,206千円増加し、24,265,083千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、522,008千円となりました。主な収入要因は、税金等調整前四半期純利益1,506,104千円及び助成金の受取額136,412千円であり、主な支出要因は、仕入債務の減少額598,853千円及び法人税等の支払額1,485,533千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、2,650,933千円となりました。主な支出要因は、投資有価証券の取得による支出2,064,772千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、4,360,396千円となりました。主な収入要因は、長期借入れによる収入4,000,000千円及び社債の発行による収入1,981,693千円であり、主な支出要因は長期借入金の返済による支出2,405,068千円であります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

中期4ヵ年経営計画初年度の当期は、ユニット制組織の立ち上げ・グローバル人材の更なる開発・ゲーム開発投資など、仕込みの年と位置付けております。第3四半期以降、海外を含むTCGユニットは四半期により凹凸ありますが好調に推移することを見込んでおり、デジタルコンテンツユニットはゲーム開発の先行投資を継続させるとともに、2023年3月の「バンドリ！ガールズバンドパーティ！」の超大型アップデート等で巻き返しを図ります。また国内で声出しイベントが可能になるなどコロナによる規制緩和が進んできており、各ユニットで複数の大型イベントを計画して動員の増加を見込んでおります。これらによって、2023年6月期におけるグループ全体の売上高は50,000,000千円（前期比19.1%増）、営業利益は3,500,000千円（前期比3.2%増）、経常利益は3,500,000千円（前期比31.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,300,000千円（前期比34.4%減）と期初通りで予想しております。

(注)業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,605,682	27,697,646
売掛金	5,404,326	5,326,451
商品及び製品	817,622	1,134,010
仕掛品	2,285,643	2,208,089
貯蔵品	62,197	79,219
その他	1,899,805	1,768,049
貸倒引当金	△79,000	△96,878
流動資産合計	36,996,276	38,116,588
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	1,245,448	1,290,339
工具、器具及び備品 (純額)	148,275	139,930
車両運搬具 (純額)	21,019	49,615
土地	1,135,220	1,135,220
リース資産 (純額)	14,800	18,268
その他 (純額)	227,050	147,473
有形固定資産合計	2,791,815	2,780,848
無形固定資産		
ソフトウェア	122,190	117,712
ソフトウェア仮勘定	2,400	305,607
のれん	2,447	1,940
その他	106,199	99,591
無形固定資産合計	233,237	524,852
投資その他の資産		
投資有価証券	2,283,224	4,112,455
長期貸付金	42,980	40,280
繰延税金資産	884,183	860,880
その他	518,244	538,314
貸倒引当金	△29,036	△27,915
投資その他の資産合計	3,699,595	5,524,014
固定資産合計	6,724,648	8,829,715
繰延資産		
株式交付費	87	13,163
繰延資産合計	87	13,163
資産合計	43,721,012	46,959,467

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,794,497	5,199,372
未払金	1,293,368	1,102,322
未払法人税等	1,607,154	814,428
短期借入金	—	995,871
1年内返済予定の長期借入金	4,346,829	4,833,522
1年内償還予定の社債	—	400,000
賞与引当金	183,212	86,473
その他	1,746,689	1,651,757
流動負債合計	14,971,750	15,083,747
固定負債		
長期借入金	8,165,322	9,273,561
社債	—	1,600,000
転換社債型新株予約権付社債	4,000,000	—
役員退職慰労引当金	74,900	82,554
退職給付に係る負債	94,630	100,896
繰延税金負債	84,250	79,138
その他	137,340	138,647
固定負債合計	12,556,443	11,274,798
負債合計	27,528,194	26,358,545
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,728,723	5,752,873
資本剰余金	3,665,493	5,689,643
利益剰余金	9,909,179	8,121,606
自己株式	△2,325,258	—
株主資本合計	14,978,138	19,564,123
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△130,465	△229,572
為替換算調整勘定	733,245	598,956
その他の包括利益累計額合計	602,780	369,384
新株予約権	—	84,495
非支配株主持分	611,899	582,918
純資産合計	16,192,818	20,600,922
負債純資産合計	43,721,012	46,959,467

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
売上高	19,574,540	24,090,600
売上原価	12,562,661	16,224,277
売上総利益	7,011,879	7,866,323
販売費及び一般管理費	5,308,744	6,483,674
営業利益	1,703,134	1,382,648
営業外収益		
受取利息及び配当金	10,466	96,102
持分法による投資利益	29,779	22,192
為替差益	85,348	—
助成金収入	790,091	136,322
その他	22,554	7,652
営業外収益合計	938,240	262,270
営業外費用		
支払利息	28,309	43,291
社債利息	—	871
為替差損	—	73,467
社債発行費	—	18,306
その他	31,617	2,878
営業外費用合計	59,927	138,814
経常利益	2,581,447	1,506,104
税金等調整前四半期純利益	2,581,447	1,506,104
法人税等	779,942	705,332
四半期純利益	1,801,505	800,771
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△36,461	△29,036
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,837,966	829,808

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,801,505	800,771
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△98,342	△99,106
為替換算調整勘定	80,340	△136,454
持分法適用会社に対する持分相当額	672	2,220
その他の包括利益合計	△17,330	△233,340
四半期包括利益	1,784,174	567,431
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,820,089	596,412
非支配株主に係る四半期包括利益	△35,914	△28,981

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,581,447	1,506,104
減価償却費	267,670	230,745
のれん償却額	19,177	506
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	23,086	16,757
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△529	△96,965
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	4,202	6,266
受取利息及び受取配当金	△10,466	△96,102
支払利息及び社債利息	28,309	44,162
株式報酬費用	—	84,495
持分法による投資損益 (△は益)	△29,779	△22,192
助成金収入	△790,091	△136,412
売上債権の増減額 (△は増加)	△811,071	85,471
棚卸資産の増減額 (△は増加)	93,174	△258,002
仕入債務の増減額 (△は減少)	991,896	△598,853
未払金の増減額 (△は減少)	350,137	△227,217
その他	△600,891	258,226
小計	2,116,271	796,988
利息及び配当金の受取額	10,857	67,165
利息の支払額	△25,807	△39,889
助成金の受取額	730,347	136,412
法人税等の支払額	△171,368	△1,485,533
法人税等の還付額	458,584	2,847
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,118,884	△522,008
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,143,921	△724,174
定期預金の払戻による収入	2,219,185	718,972
固定資産の取得による支出	△1,846,635	△552,715
投資有価証券の取得による支出	△100,800	△2,064,772
貸付金の回収による収入	2,570	2,700
その他	772	△30,943
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,868,828	△2,650,933
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△20,000	1,062,562
長期借入れによる収入	4,295,000	4,000,000
長期借入金の返済による支出	△1,955,156	△2,405,068
株式の発行による収入	106,200	48,300
社債の発行による収入	—	1,981,693
配当金の支払額	—	△290,739
自己株式の取得による支出	△2,022,341	△550
その他	△25,654	△35,801
財務活動によるキャッシュ・フロー	378,047	4,360,396
現金及び現金同等物に係る換算差額	87,575	△25,248
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	715,679	1,162,206
現金及び現金同等物の期首残高	22,446,449	23,102,877
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,162,128	24,265,083

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当第2四半期連結累計期間において、転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の権利行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,000,000千円増加し、新株予約権（ストック・オプション）の権利行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ24,150千円増加しております。

また、当社は、2022年8月25日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の消却を行っております。当第2四半期連結累計期間においては、消却により利益剰余金が2,325,717千円減少し、自己株式が2,325,717千円減少しております。この結果、当第2四半期連結会計期間末において自己株式はゼロとなっております。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	エンターテイメント事業	スポーツ&ヘル スケア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,156,892	2,417,648	19,574,540	—	19,574,540
セグメント間の内部売上高又は 振替高	20,650	70,541	91,191	△91,191	—
計	17,177,542	2,488,189	19,665,731	△91,191	19,574,540
セグメント利益又は損失(△)	1,862,367	△159,233	1,703,134	—	1,703,134

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2022年7月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	エンターテインメント事業	スポーツ&ヘルスケア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	20,914,448	3,176,152	24,090,600	—	24,090,600
セグメント間の内部売上高又は 振替高	21,678	112,613	134,292	△134,292	—
計	20,936,127	3,288,766	24,224,893	△134,292	24,090,600
セグメント利益又は損失(△)	1,392,033	△9,384	1,382,648	—	1,382,648

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、セグメント情報における報告セグメントについては、「デジタルIP」及び「ライブIP」の2つの事業別のセグメントとしておりましたが、2023年6月期から当社グループにおけるユニット制導入に伴う内部報告管理体制の変更及び2023年6月期を初年度とする中期経営計画の遂行にあたり、今後の事業展開を踏まえ合理的な区分の検討を行った結果、第1四半期連結会計期間より、従来「ライブIP」事業に含めておりましたスポーツ&ヘルスケア本部(2022年7月1日より「スポーツ&ヘルスケアユニット」に変更)を「スポーツ&ヘルスケア」事業として区分表示いたします。

また、スポーツ&ヘルスケア本部を除いた事業を「エンターテインメント」事業へ変更いたします。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益	28円85銭	11円79銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,837,966	829,808
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,837,966	829,808
普通株式の期中平均株式数(株)	63,709,143	70,385,900
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	26円71銭	11円39銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	—	—
普通株式増加数(株)	5,116,519	2,468,977
(うち新株予約権)	(5,116,519)	(2,468,977)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	

(注) 当社は、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を、2022年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

(役員に対するストックオプション(新株予約権)の発行)

当社は、2022年11月14日開催の取締役会において、当社の取締役に対するストックオプションとしての新株予約権に関する報酬等の額及び具体的な内容決定に関する議案を2022年12月23日開催の臨時株主総会に付議することを決議し、当該臨時株主総会において承認され、2023年1月13日に第6回新株予約権の割当を行っております。

詳細につきましては、2022年12月23日公表の「ストックオプション(新株予約権)の発行に関するお知らせ」及び2023年1月13日公表の「ストックオプション(新株予約権)の発行内容確定に関するお知らせ」をご覧ください。